

## 1. バスターミナルの種類とOCAT

### (1) バスターミナルの種類

注) ここでいうバスターミナルは、都市間高速バス（空港シャトル含む）対応に限定して整理

#### ■バスターミナルの種類

法的な位置づけの有無		法に基づく区分
自動車ターミナル (路外施設)	道路や駅前広場など一般交通が利用可能な場所以外(路外、建物内等)のようなもの 道路交通法が適用されない(路外施設)	バスターミナル事業の許可を得て、不特定多数の利用者に供するもの ・バス事業者以外の者も設置できる ・ターミナル事業者がバス事業者から使用料を徴収 ・近畿圏ではOCATのみ ・バス事業者が自らの用に供するため設置するもの ・他の事業者による利用は予定しない(使用料の概念は無い) ・法手続として、ターミナル事業の許可は必要とせず、構造・設備の確認申請のみで設置できる
	路外施設	専用バスターミナル
	路外施設 ・路外等に設置されるものだが、自動車ターミナル法の適用を受けないもの	停留所1バース
道路、駅 和広場に 設けられるもの	道路や駅前広場など一般交通の用に供する空間に設置されるもの(いわゆるバス停)	自動車ターミナル ・大阪市内のJR・私鉄駅に設けられているもの ・鉄道事業者が鉄道事業者が主たる利用者で、基本的に法に基づき専用バスターミナルと同じものだが、法21条の運用除外規定を受け、法の管轄外にあるもの ・個別バス事業者による道路利用・使用許可によるもの(他事業者は原則的に使えない)



### (2) OCATバスターミナルの位置づけ

①平成4年5月に運輸省(現国土交通省)から自動車ターミナル法に基づく自動車ターミナル事業の経営免許を取得した、近畿圏で初めて認可を受けた「一般バスターミナル」。

②近畿圏唯一の自動車ターミナル法に基づいて設置された一般バスターミナル。  
(市民を問わず広くバス会社に対し門戸を開放)

### (3) OCATと大阪市内の主なターミナル(比較規模が大きいもの)の比較

～OCATには多くのバス会社が入入れているが、それ以外のターミナルは運営する鉄道会社  
の系列バス会社に特化した専用のターミナル～

名称	区分	バース数	運行本数	利用するバス会社
OCAT バスターミナル	自動車ターミナル法による一般バスターミナル	バース数10 貸切バス用3 大阪空港・都市間高速用1 関西空港・都市間高速用1 都市間高速バス3 降車専用2	65路線 321便/日 32.1	JR西日本系 (10路線23便) 近鉄バス (26路線35便) 南海バス (8路線24便) 日本中央バス (3路線3便) 明光バス (1路線10便) JR四国バス (6路線85便) 日本交通 (3路線33便) 西船バス (1路線22便) 関西空港交通(日本交通 と共同運行) (1路線32便) 大阪空港交通 (1路線40便) その他 (5路線14便)
大阪駅 JR高速 バスターミナル		バース数14 高速バス用10(都市間高速バス) 阪急バス2 市バス2	31路線 175便/日 17.5	JR西日本系 (27路線166便) その他JR系 (4路線9便)
ハービス エント バスターミナル		バース数3	7路線 126便/日 42.0	阪神系 (6路線125便) その他 (1路線1便)
阪急三番 街バスターミナル		バース数6 (通常使用は3面)	29路線 123便/日 20.5(通常 使用40.0)	阪急系バス (24路線107便) その他 (5路線16便)

※運行本数欄の下段の数字は、高速バス用バース数当たりの運行本数を示す。

資料：各バス会社およびバスターミナルのホームページより作成